

プラごみゼロ、内陸から

【奥州】

県南圏域環境交流
フォーラム for S
DGs (県南広域振
興局保健福祉環境部
は12日、奥州市水沢

佐倉河の市文化会館(乙ホ
ール)で開かれ、約70人が
「海洋ごみ・マイクロプラ
スチック」問題について理
解を深め、未来に向けた取

り組みについて考えた。
同フォーラムは、「豊か
な誇れる自然、環境を次世
代に引き継いでいく」を基
本理念とし、国連サミット
で採択されたSDGs(持
続可能な開発目標)の達成
に寄与する視点を加えて、
圏域での循環型共生社会の
実現に向けたネットワーク
の形成を目指して開催され
た。

同日は、「内陸・北上川
流域から海ごみゼロの未来
へ」をテーマに設定。初め
に同振興局保健福祉環境部
の藤原寿之部長が「フォー
ラムをきっかけに内陸から
の取り組みが幅広く展開さ
れることを期待する」とあ
いさつ。続いて早池峰地域
保全対策関係功労者表彰で
北上市の大上孝さん(県ケ
リンボランティア・早池
峰ボランティアの会所属)
に、藤原部長が賞状と記念
品を手渡し、長年の活動を
たたえた。

続いて「海ごみゼロアワ
ード2019」最優秀賞を
受賞した東京都のNPO法



環境交流フォーラムで「海ごみ」
について語る今村さん(中央)

人荒川クリーンエイド・フ
ォーラム事務局長の今村和
志さんが講師を務め、「海
ごみは、もはや他人事では
ない!?」東京「荒川」の
活動から」と題して同法
人の活動やSDGs、社会
貢献への投資などについて
分かりやすく語った。

今村さんは「海洋ごみは
身近な課題として捉えられ
ていないのが実情だ」とし、
荒川をはじめ、カリブ海、
長崎県対馬市のごみが散乱
する状況を写真で紹介。海
洋ごみ問題について「風化
したり、マイクロ化するの
で発生源対策と早期回収が
大切だ」と強調した。

【奥州】
県立岩谷堂高校(鈴木智
香校長、生徒385人)の
JRC部は12日、奥州市の
まえさわエコキャップ運動
推進委員会にペットボトルキャッ
プ81・6キを寄贈した。生徒や家
庭から回収している物で、同委員
会を通じてリサイクルの利益が発
展途上国の子供のワクチンのため
役立てられる。

また「収益性にこだわっ
て稼げる慈善事業」を提唱。
「収益を上げれば再投資さ
れて事業が継続できる。厳
しい意見を頂けるので、事
業を改善できるチャンスに
なる」と指摘した。ウェブ
サイトや印刷物で独自のア
ピールをしていることにつ
いては「個々のスタッフの
顔が見えるNPOであるこ
とで、世の中に認知される
団体になり、活動が分かっ
てもらえるようになった」と
効果を語っていた。

講演後には、県南地方の
活動団体と今村さんがパネ
リストとなったディスカッ
ションが行われた。

加えて2018
も協力を呼び掛
わせて持ち込ん
収量が大きく増
今年度もキャ
で、部員5人が
同市前沢の市社
支所に持ち込ん
個を受け取り、「
康裕同支所長は
で、分別にも協

【奥州】

寄贈は11年目。校内での回収に

海ごみゼロへ結束

水沢で環境フォーラム

県南振興局

県南圏域環境交流

フォーラム for SD

Gs (県南広域振興局

保健福祉環境部主催)

は12日、水沢佐倉河の

市文化会館(2ホール)

で開かれた。テーマは

「内陸・北上川流域か

ら海ごみゼロの未来

へ」。自然・環境保全活

動功労者表彰や講演な

どを通じ、地域の豊か

な環境を次世代に引き

継ぐ取り組みに弾みを

つけた。

県南の自然環境保全

活動団体や企業、行

政、住民ら約70人が参

加。毎年開かれている

フォーラムで、今回は

SDGs (持続可能な

開発目標、2015年

国連サミット採択)

達成への視点を加え

た。

招待講演は「海ごみ

はもはや他人事ではな

い!? 東京「荒川」

の活動から」と題し、

NPO法人荒川クリイ

伝わってきた」と成長

を喜んだ。

岩渕店主は「生徒た

ちは3年間でものすこ

く上達するので教えて

いて楽しい。学んだ調

理の技法や心得を、次

世代の子どもにも伝え

てもらえたら」と願っ

ていた。

ンエイド・フォーラム

の今村和志事務局長が

取り組みを紹介した。

同法人は市民団体や

企業などさまざまな主

体と連携し、東京湾に

注ぐ荒川流域の清掃活

動を26年間にわたり継

続。昨年は188会場
で延べ1・2万人が参
加した。

今村事務局長が活動

の特徴の一つに挙げた

のが、ごみの実態をデ

ータ化する「調べると

み拾い」。データによ

り「見える化」して効

果的な対策につなげ

~~~~~

講演などを通じ、取り

組みの充実を図った環

境交流フォーラム

るためといい、収集量  
は飲料ペットボトルが  
10年連続で最多とい  
う。

プラスチックごみは

「発生源対策と早期回

収の両方が大切」と指

摘。「どんなに良い道具

も使うのは人」と強調

し、「3R」(リデュース、

リユース、リサイ

クル)は「三つが同じ

レベルで捉えられがち

だが、最初に減らす(リ

デュース)という順序

が大切と呼び掛けた。

市のNPO法人奥

州・いわてNPOネッ

ト(菅原恵子理事長)

など活動団体を交えた

交流ディスカッション

を行い、NPOなどの

活動紹介パネルも展示

された。

フォーラムの冒頭で

は表彰式が行われ、北

上市の太上孝さんが早

池峰地域保全対策関係

功労者として、早池峰

地域保全対策推進協議

会(事務局・県南局保

健福祉環境部)から表

彰状を受けた。

